



○より多くの人が、

広い分野で

このワークショップでは、地域に目を向け、福祉や生涯学習の支援に取り組むグループの紹介もされました。障

がいのある方の活動を支援する「授産

所ボランティア」。高齢者への配食サー

ビスや昼食会の取り組みをする「松枝

ボランティア」・「笠松ボランティア」・

「一番星」のグループ。

子ども達の体験活動を

支援する「わくわく広

場」や読み聞かせ活動

に取り組む「かみふうせん」。実にさま

ざまな取り組みが進められています。

○「少しずつ!」のか

どのグループも平均して、一回の活動は二〜三時間です。しかし、これが

継続されると大きな力になります。例

えば、一人が二時間ずつ月二回活動し、

一年間続けられると四十八時間。一日

八時間活動するとして日数に置き換え

ると、年間六日間にもなります。十人

で取り組めば、六十日間になります。

さらに活動に参加する人の数が増えれ

ば、その力はさらに大きなものになりま

す。

○まず活動を知ってもらう、

できることから!

こうしてみると、多くの方々に関心を

もって

いただく

とがとて

も重要で

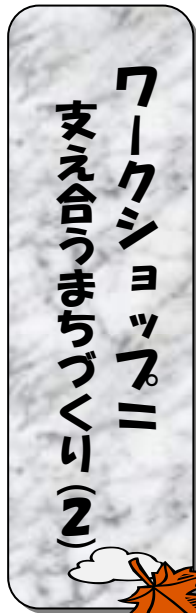
あると言えます。支え合う活動は、地

道なものです。それだけに、「わがまち

のちよっといい話」でも取り上げるなど、

いろいろな場で紹介し知ってもらおうこ

とが必要です。また、それぞれのグル



ープが活動の情報を交流して、互いの取

り組み方を知ること大切なことです。

話し合う中で、まず無理をせずに、で

きる人がまわりの人に声をかけ、いっし

よになってやろうよという声がたくさん

出されました。こうした取り組みが

人と人のかかわりをつくり、近所づ

きあいを深め、支え合う地域づくりに

つながっていくのではないか。そんな

思いに溢れたワークショップでした。



ワークショップで話し合った  
内容をまとめて報告する